

# パネルディスカッションⅠ

1人でも多くの障害のある方の雇用・定着を実現するために  
～企業の取組から考える～

## 【司会者】

稲田 憲弘

(独立行政法人高齢・障害・求職者雇用支援機構 雇用開発推進部雇用開発課 課長補佐)

## 【パネリスト】(五十音順)

阿部 瞳

(株式会社ザグザグ 総務部 採用チーム)

高橋 広樹

(大和ライフプラス株式会社 ダイバーシティ推進部統括課 課長)

吉永 俊介

(THK 株式会社 山口工場 製造推進部環境教育課 副課長)

兼 経営戦略統括本部 人事総務統括部人財課 (障がい者雇用推進担当)

# 1人でも多くの障害のある方の雇用・定着を実現するために ～企業の取組から考える～

独立行政法人高齢・障害・求職者雇用支援機構  
雇用開発推進部雇用開発課  
課長補佐 稲田 憲弘

- 障害者雇用は着実に進展しているが、障害者の数が0人である企業（0人雇用企業）もあり、当該企業では、何からどうすればよいのか、どのように社内の理解を得たらよいのかといった根本的な悩みを抱えていることも少なくない。  
※ H27.6.1 現在、全企業数 87,935 社のうち「0人雇用企業」は 27,614 社（31.4%）（厚生労働省「平成 27 年障害者雇用状況の集計結果」より）。
- 他方、雇用障害者が増加し、精神障害者や発達障害者等の受入れが進む中で、各企業では、業務形態等に応じて障害者職業生活相談員や企業在籍型ジョブコーチ等を配置し、支援機関と効果的に連携しながら職場定着支援に取り組んでいる。
- こうした中、今年4月から合理的配慮指針が施行され、社内サポート体制の要である企業内の障害者職業生活相談員等には「障害のある方の思いを聴き、支え、同じ職場で働く人との相互理解を促進する」等の役割も求められるものと考えられる。
- これらを踏まえ、本パネルディスカッションでは、様々な形で障害のある方の雇用・定着に取り組んでいる企業の皆様に各社での取組を報告していただき、企業における障害者雇用の取組の現状と課題について情報共有・検討を行うこととしたい。